

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	5
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	10
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー 平成 30 年度 河川基金優秀成果表彰のご報告

この度、平成 29 年度に公益財団法人河川財団より助成いただいた『水辺の「小さな自然再生」現地研修会による川づくり人材育成』事業に対し、「平成 30 年度 優秀成果表彰」を頂くことができました。

3 年連続となります本受賞は、水辺でできる「小さな自然再生」の全国普及の趣旨にご賛同いただき、現地研修会等の人材育成の機会を共催頂いた関係者の皆さま、研修会にて活発な議論に参加頂いた皆様、そして普及推進のエンジンとなって企画運営に全面協力頂いた「小さな自然再生」研究会メンバーの協働の賜物であり、誠に有難うございました。



ポスター発表の様子

(写真撮影&提供：芦田川環境マネジメントセンター・高橋さん)

1月27日（日）には、（公財）河川財団主催の「平成 30 年度 川づくり団体全国事例発表会」が東京大学小柴ホールにて開催され、川や流域をより健全な姿に変える活動に取り組む全国の川づくり団体の交流が行われました。

20 を超える川づくり団体から平成 29 年度に実施した活動がポスター形式で発表され、JRRN から土屋代表より小さな自然再生を通じた川づくり人材育成の取組みを参加者に紹介させて頂き、貴重な意見交換の場となりました。

多様なセクターの協働により川づくりが進められるように、小さな自然再生の普及活動についても、企画から実施をコラボレーションで推進していくことの重要性を約 5 年の活動を通じて学ばせて頂いた気がします。

最後に、小さな自然再生の普及促進に向けた取組みに対し、ご支援、ご協力いただきました皆様に感謝を申し上げるとともに、引き続き水辺でできる「小さな自然再生」の全国普及を通じて、人と川と地域の望ましい関係構築に貢献してまいります。

(JRRN 事務局・和田彰)



JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」開催速報

全国の小さな自然再生の担い手が集い、全国の取組みを共有し、今後の更なる推進に向けた議論を行う「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」を2019年1月26日（土）、27日（日）に神戸にて開催致しました。

当日は、約 170 名のご参加をいただき、総合地球環境学研究所の田村さんの司会のもと、九州大学の島谷先生による基調講演「これまでの多自然川づくりの取組と小さな自然再生」、全国 15 地域の先進的な事例発表をいただいた後、会

場参加者との意見交換を行い、「小さな自然再生」の技術や関係者との関わり方、今後の方向性について議論を深めました。ここでは、写真での開催速報となりますが、後日、本サミットの開催報告書をまとめて皆様にも共有させていただきます。

企画・準備・運営にあたりご協力いただきました「小さな自然再生」研究会の皆様、講師・講演者の皆様、サミットにご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

【1月26日(土)】小さな自然再生サミット@デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)



開会 (司会：田村典江さん)



開会挨拶 (玉井信行先生)



基調講演 (島谷幸宏先生)



事例発表



意見交換会



展示スペース

【1月27日(日)】住吉川現地視察、サイドイベント講習会～iRICで学ぶ 川の流れ～ ※iRIC:河川の流れ・河床変動解析ソフトウェア



現地講師 (島本信夫さん)



住吉川現地視察



iRIC 講師 (久加朋子先生)



iRIC 講習会



JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2019」写真募集のお知らせ【予告】

JRRN では、水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目指して、「桜のある水辺風景」の写真とメッセージを募集しています。昨年は 26 名の方々より 44 作品をご応募いただきました。今年も作品募集を予定しています。

応募方法は昨年と同様に、メール、Facebook での応募を予定しています。

応募開始時期は 3 月 1 日を予定しています。今年は、最初の作品募集から 10 周年目の記念の年となります。皆様の応募を心よりお待ちしております。

《Facebook 募集ページ》

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

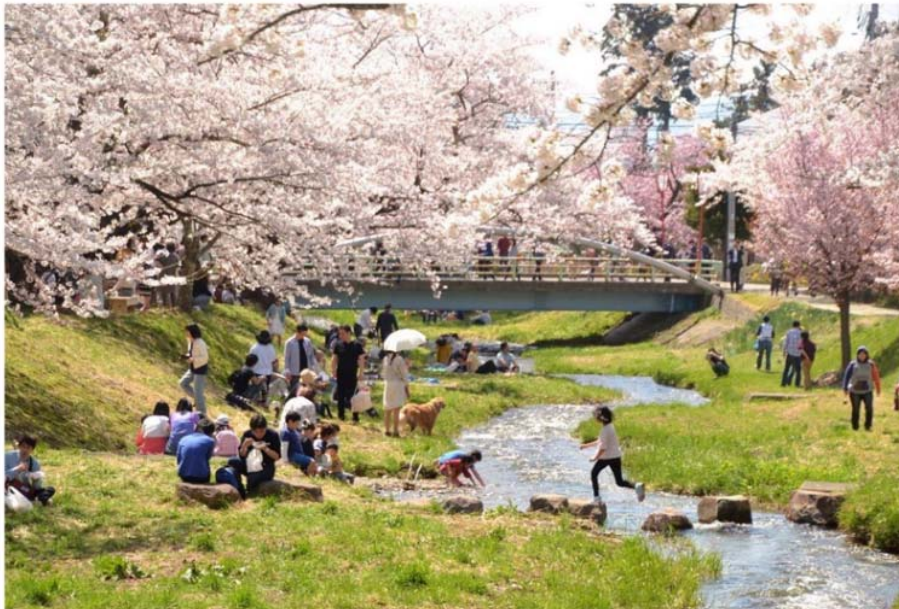
《過去の応募写真集をご覧ください》

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>



昨年度の投稿写真から

桜のある水辺風景 2018 応募写真集



日本河川・流域再生ネットワーク

昨年の応募作品を掲載した「応募写真集」表紙（例年 WEB 上で公開）

（JRRN 事務局・澤田みつ子）

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)活動 – ARRN 国際フォーラムでの発表者募集案内

あなたの川づくり経験を“第 22 回国際河川シンポジウム”で発表しませんか？

『第 16 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』 2019 年 10 月@ブリスベン

JRRN が事務局を担うアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)の本年の国際フォーラムの発表者募集のご案内です。

【300 words 発表要旨提出〆切：2月15日（金）】

本年の“ARRN 国際フォーラム 2019”は、国際河川財団が主催する第 22 回国際河川シンポジウム（22nd International RIVER SYMPOSIUM）の特別セッション「Rivers by design - from Restoration to Resilience」として 2019 年 10 月にオーストラリア・ブリスベンで開催します。

国際河川シンポジウムは、学術会議とは異なり、河川再生に取り組む多様なセクターが参加し、川づくりに関わる事業や活動から得られた経験や教訓を共有する国際交流会議です。

本特別セッションでは、英語を共通言語に、口頭発表 12 分及び質疑応答 3 分の計 15 分が各発表者に割り振られ、日本、韓国、中国をはじめとするアジアの国・地域から河川再生の経験を発表頂く予定です。

本セッションの発表応募〆切（300 単語以下の発表要旨、100 単語以下の自己紹介）が 2019 年 2 月 15 日（金）に迫っております。あなたが取り組む川づくりについてご発表頂ける方は、是非とも以下の ARRN ホームページをご覧ください。

（応募申請した発表要旨は、国際河川シンポジウムの評価委員会による査読を経て 4 月末に結果発表されます。その後の論文等の提出はありません。）

多数の方々のご参加をお待ちしております。

■第 16 回 ARRN 国際フォーラム案内ページ

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1046.html>



As of 1st Feb. 2019
Asian River Restoration Network (ARRN)

22nd International RIVER SYMPOSIUM
(October 20-24, 2019 Brisbane, Australia)

SPECIAL SESSION
Concurrently "16th ARRN's International Forum on Waterfront and Watershed Restoration"

Call for Abstracts (Presenters)

(1) Theme:
Rivers by design - from Restoration to Resilience

(2) Organizer:
Asian River Restoration Network (ARRN)

(3) Keywords:
River restoration, Restoring freshwater ecosystems, River basin planning, Basin master plans, Water sensitive urban design, Nature-based solutions for climate change, Collaboration with stakeholders etc.

Procedure for Abstract submission:
If you wish to present in this special session, please visit 22nd International River Symposium website first (<https://riversymposium.com/>), go to "Submit an Abstract" page below, and submit your abstract by following the instructions.
<https://riversymposium.com/submit-abstract/>

In addition, after submitting your abstract, please inform ARRN Secretariat (info@a-rr.net) your "Full name" and "Title of your presentation" by email.

Key dates:

- 15th February 2019: Deadline for abstract submission
- 30th April 2019: Notification of acceptance
- 30th May 2019: Deadline for registration and payment

If you have any question, please contact to ARRN secretariat (info@a-rr.net).

2019 Riversymposium

22nd International
RIVER SYMPOSIUM
EXCELLENCE - COLLABORATION - INTEGRATION

(JRRN 事務局・和田彰)



22nd International
RIVER SYMPOSIUM
EXCELLENCE - COLLABORATION - INTEGRATION

2 月



(yamagatakanko.com/log/?l=367325 より引用)



あの日のあの川 リレー日記 ～第 42 話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第 42 話主人公 大泉達也

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：山形県最上川)

「地元のシンボル」

いつのこと？： 小学校時代

どこの川？： 最上川

私が今回取り上げる川は、山形県を流れる最上川である。ざっと最上川に関する概要を述べておく。最上川は昔から農業用水や交通路として利用され、山形県の「母なる川」と呼ばれているようだ。また熊本県の球磨川、静岡県富士川と並び、日本三大急流の一つに数えられている川だ。そしてなんといっても、かの有名な俳人松尾芭蕉が「五月雨を集めて早し最上川」を読んだ川としても知られており、全国的にも知名度の高い川である。



図 1 最上川 (撮影：2018 年 5 月 村山市)

最上川は祖父母の家から車で 5～10 分ほど行ったところにある。川までは車を使わなければならない、大きな川であったため、地元の生活とともにあるような親しみやすい川とはあまり言えなかったが、市民歌にその名が何度も入ってくるほど、市のシンボリックな川であった。そんな最上川と私の記憶は思い出してみると意外と多くあった。

小学校 3 年生の時に地区の友達と最上川を目指して探検に出かけたことがある。先述したように川までは車を使わないと遠い距離で、小学生の足

だと何時間もかかってしまう。だが私たちは興味本位で、未舗装の山道を通って川を目指した。今考えると、小学校中学年の児童数名で山に入っていくのだから、かなり危険な行動だったと思う。結局川にはたどり着けず、山道の途中で引き返してきたのだが、当時の高揚感は今でも忘れられない。服を汚して帰ったことに対して、母親に怒られたのも覚えている。

その同時期に学校の遠足のようなもので、最上川の舟下りに行った。私の地元である村山市の碁点、三ヶ瀬、隼の三地点は昔から通過するのに困難を極めた「最上川三難所」と呼ばれ、県内有数の舟下りスポットとして有名であった。およそ 12 km、50 分のコースをお座敷船に乗って川を下ったのはとても貴重な体験であった。大学生になった今、その景色やスリルを体感するべく、もう一度乗ってみたいとこの日記を執筆して思っている。

また我が家のお出かけ定番スポットといったら、最上川沿いにあった「クアハウス碁点」だった。私が以前住んでいた地域から最上川を渡った先にある温泉施設で、最上川を眺めることが出来る露天風呂や温泉プールが楽しめる施設であった。学校が長期休みに入ると、母親によく連れて行ってもらい、弟とプール遊びをしたのは良い思い出だ。雄大な最上川の景色を見ながら、温泉やプールが楽しめるというのは、当時あまり意識していなかったが、今考えると最高に贅沢だったと感じる。施設にはテニスコートも併設されており、予約をすれば誰もが利用できるようになっていた。家族とテニスを楽しんだこともよく覚えている。

ここまで長々と、私と最上川の思い出を執筆してきたが、正直初めはこの日記を書くことが不安であった。私自身、山形県に住んでいたのは小学校 5 年生までで、他の人に比べると地元や地元の川に対する思い入れが薄いのかもしないと勝手に思い込んでいたのだ。しかしこの日記を執筆すると、短い期間の中でも地元や最上川との思い出はたくさんあり、自分も地元の川として最上川の魅力のある程度理解しているのだと再確認することが出来た。今でも自分が生まれ育った町は大好きだし、地元を流れる最上川も大好きである。この日記を書く機会をいただけたことに感謝したい。



図 2 村山市大淀

<http://www.thr.mlit.go.jp/yamagata/river/kan-kyou-seibi/view/introduction2.html> より引用

(次号は 4 月号にて片岡さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.117

岡村幸二 (JRRN 会員)

五堰でまちは潤う： 400 年の歴史ある山形五堰 市内を網状に用水が流れる



撮影：2018 年 10 月 (山形県山形市・馬見ヶ崎川)

◆市内を網の目に流れる山形五堰

400 年も前から山形市内を潤して、農業用水、生活用水、工業用水などに使われていた山形五堰ですが、1985 年には、5 か所の取水口を統合して馬見ヶ崎合口頭首工として整備されました。江戸時代から、高低差 60m の傾斜地に城下町が広がり、西側の低い場所に城が築かれていました。

◆9 月中ごろ芋煮会でにぎわう

馬見ヶ崎川は市街地近くでは地下浸透して伏流水となるため、平常時は水量がやや少なく、親水的な利用に向いていません。秋には直径 6.5m の大鍋を囲んで、河川敷で市民総出の芋煮会が催されます。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

河川書の探求(10)

ガンジス川の流れ

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

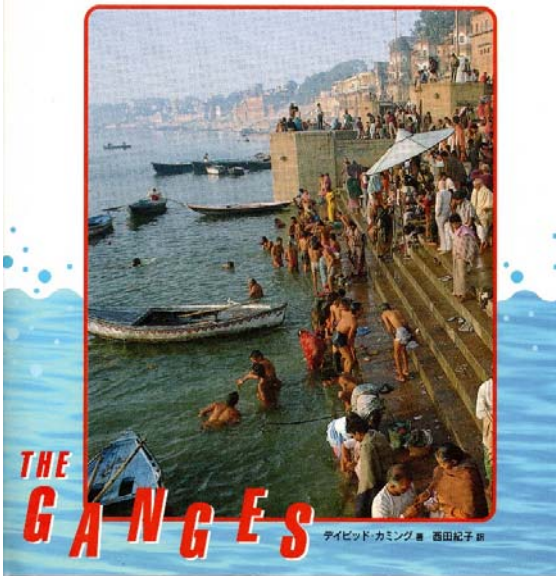
1. ガンジス川－源流から河口まで

ガンジス川は、ヒマラヤ山脈のガンゴトリ氷河から溶けた水がバーギラティ川を下りアラカナンダ川と合流し、ここからガンジス川となる。この水源から河口ベンガル湾まで、中国、ネパール、ブータン、インド、バングラディシュの5ヶ国の流域を流れる。延長約2,500km、流域面積約173万km²の国際河川である。

児童書、ディビッド・カミング著『ガンジス川』(偕成社・1995年)から、その流れを追ってみる。氷河から500km下ると、ハルドワールの町に入る。ハルドワールに1854年に建設された上ガンジス用水路は灌漑用水路として、60万7,500haを潤し、水力発電用のダムに使われている。さらにバラナシを下り、沐浴の街パトナでは、ガガラ川、ガンダク川、ソン川などと合流する。

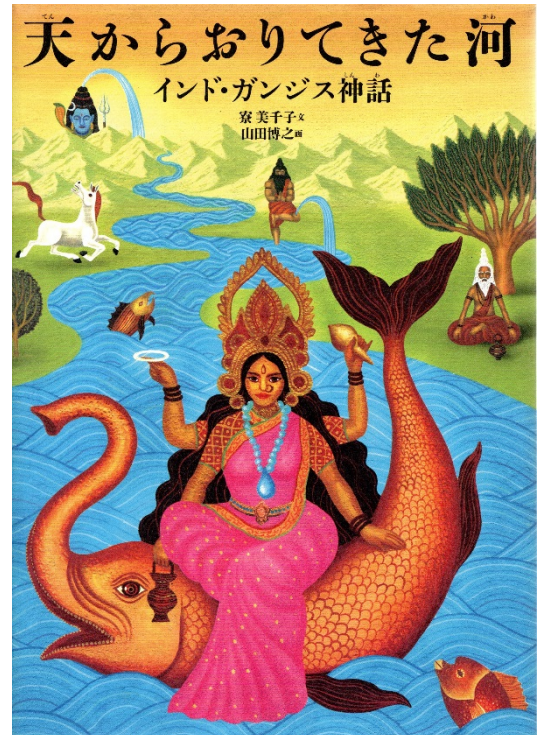
川の地理図鑑－人びとのくらしと自然－4

ガンジス川



大河となったガンジス川はヒンドスタン平原を蛇行しながら流れる。パトナから下ると、ガンジス川は二つの流れに分れる。一つはインドの国境を越え、ブラマプトラ川と合流してバングラディシュに向かってながれるパドマ川、もう一つは南へ向かうフーグリ川である。ガンジス川の河口(パドマ川、フーグリ川)は7,700km²に及ぶデルタ地帯である。川は沢山の細い流れになって50以上もある島々を迷路のように流れる。海水と混じりあった世界最大級のマングローブの密林が広がる。また、上流

からの土砂の流れが海底扇状地を形成している。ジーナ・ダグラス著『ガンジス川』(帝国書院・1987年)は、流れに沿って、都市を紹介する。また、児童書として、奈美千子・文/山田博之・画『天からおりてきた河－インド・ガンジス神話』(長崎出版・2013年)がある。



2. ガンジス川の巡礼

インドの人口13.4億人、そのうち約78%がヒンドゥー教徒である。ヒンドゥー教は身分の低い者でも、生きている間良いことをしておけば、死んだ後でも生まれ変わるという輪廻思想がある。教徒たちはガンジス川の神聖な川に沐浴をし、ガンガーの女神に祈り捧げ、死後は死体を焼き、灰をガンジス川に撒いてしまうことを願っている。巡礼の書を掲げる。

中村元・肥塚隆著『ガンジスの聖地』(講談社・1979年)、直田龍作著『河への祈り ガンジス巡礼』(クレオ・1997年)、ラグビール・シン著『ガンジス』(岩波書店・1992年)。

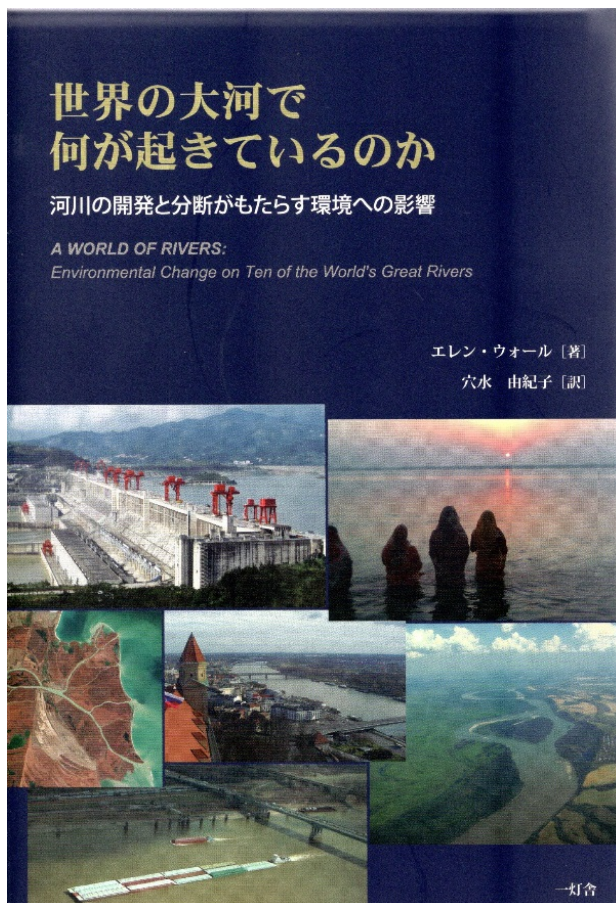
野町和嘉著『ガンジス』(新潮社・2011年)は、ガンジス川での沐浴者を映し出す。野町は次のように述べている。

「ヒマラヤの雪解け水に始まるガンジスの流れ、生命を育み、人々の願望と来世の祈りを託されて流れゆく間に、その底流には、インド社会に堆積した悲惨や汚濁からなる泥の層を堆積させ、河口へと押し流してきたのである。恍惚の沐浴絵図を眺め



ながら、夥しい数の巡礼者たちがこうして、一同祈ることによって、彼ら自身の心の浄化の一方、汚濁を底流に含んだガンジスの流れを、じつは精神のフィルターにより浄め海に還しているのではと思えるようになった。そう、浄化された水はやがて天にのぼり、モンスーンの雨となって、ヒマラヤの峰々に降りそそぎ、ガンジスの聖水として甦るのである。ガンガーの女神、永遠の輪廻転生」

白石凌海著『インド 輪廻に生きる 大沐浴祭』(明石書店・2002年)がある。



3.ガンジス川の国際水紛争

ヘザー・L・ビーチ他著『国際水紛争事典』(アサヒビル・2003年)、アシット・K・ビスワス/橋本強司編著『21世紀のアジア国際河川開発』(勁草書房・1999年)により水紛争をみて見たい。インドはバングラディッシュの合意なしに、ガンジス川分流のファラッカにダムを建設・運営している。このため「ガンジス川水協定」が締結された。ファラッカにガンジス川の水を分け合うこと、ガンジス川の増水期については、長期的な解決策を編み出すこと、なお、協議が続いている。

エレン・ウォール著/穴水由紀子訳『世界の大河で何が起きているのか－河川の開発と分断がもたらす環境への影響』(一灯舎・2015年)は、インドのファラッカダムがバングラディッシュに悪影響を及ぼしていることは河川改修を巡る問題であり、乾期の流量が少ない期間国家間および地域間で水を公平に分配する必要性を、さらにガンジス川沿岸の洪水被害を減らす必要性を説いている。

以上、いくつかの書にて、ガンジス川について見てきたが、聖地の川、輪廻転生の川であり、さらには下流域では国際河川の水紛争が絶えない河川である。

<生者死者包みガンジス朝焼けて> (高橋 薫)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2019年1月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第23回 荒川流域再生シンポジウム (3/17 開催)



NPO 法人荒川流域ネットワークより、3/17 (日) に埼玉県嵐山町で開催される本年の荒川流域再生シンポジウムのご案内を頂きました。

■日時：2019年3月17日(日) 13:00～16:30

■場所：女性教育会館 大会議室 (埼玉県嵐山町)

■主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3321.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「第200回 河川文化を語る会『江戸時代の環伊勢湾経済圏と特産物流通』(3/17 開催)」



公益社団法人日本河川協会より提供頂いたイベント情報です。

■日時：2019年3月17日(日) 14:30～16:30

■場所：NTNシティホール「大会議室」(三重県桑名市)

■講師：曲田 浩和氏 (日本福祉大学経済学部教授)

■主催：公益社団法人日本河川協会

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3294.html>

【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター案内」



RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2019年1月号) が RRC 事務局より届きました。

本号では、本年4月開催の RRC 総会参加申込受付や英国河川賞2019応募案内、英国環境庁が2018年に実施した自然機能を活かした15の治水対策 (Natural Flood Management Roadshow Events) の参考資料一覧、また今後予定されている河川再生に関わる研修行事等が紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3328.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性」新刊冊子案内



小さな自然再生サミット2019神戸大会でもご発表頂きました駒生川に魚道をつくる会・美幌博物館の町田善康さんより、冊子「よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性」発行のご案内を頂きました。

●冊子名：よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性

●発行者：駒生川に魚道をつくる会・美幌博物館

●著者：町田善康

●発刊日：2019年1月31日

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3325.html>

会議・イベント案内 (2019年2月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント) ※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■平成30年度 川の再生交流会

○日時：2019年2月2日(土) 10:00～16:00

○主催：埼玉県

○場所：さいたま市民会館うらわ(埼玉県さいたま市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2913.html>

■第12回 淡海の川づくりフォーラム

○日時：2019年2月3日(日) 9:30～16:30

○主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会

○場所：滋賀県危機管理センター(滋賀県大津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2899.html>■ふるさと未来講座「自然科学」②「多様な命つながる九頭竜川へ
～サクラマス指標種として豊かな生態系を未来に～」

○日時：2019年2月16日(土) 14:00～15:30

○主催：福井ライフ・アカデミー本部

○場所：福井県生活学習館 ユー・アイふくい(福井県福井市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2919.html>

■ふるさと兵庫の川づくりシンポジウム

○日時：2019年2月23日(土) 13:00～17:00

○主催：兵庫県

○場所：神戸市立御影公会堂(神戸市東灘区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2921.html>

■“いい川”づくり研修会・関東地域 ～災害復旧と多自然川づくり～

○日時：2019年2月27日(水) 10:00～16:00

○主催：NPO 法人全国水環境交流会

○場所：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2927.html>

■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 (JRRN 会員著作の新刊案内) *Publications*

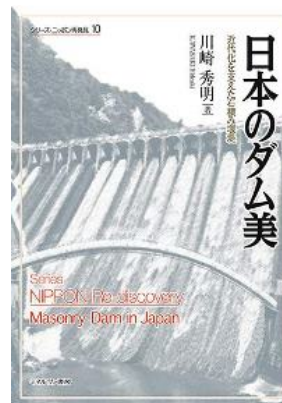
■「川に生きる 世界の河川事情 (2018.9)」



本書は中日新聞・東京新聞で3年間に渡り連載されたコラム「川に生きる」を書籍化したもので、多様な生物が生息する川と人との関係が描かれています。

- 書名：川に生きる 世界の河川事情
- 著者：新村安雄 (JRRN 会員)
- 頁数：192
- 発刊日：2018年9月14日
- ISBN：4806207489, 978-4806207481
- 定価：¥1,300+税
- 出版社：中日新聞社

■日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤 (2018.10)



本書では、「石積みダム」の歴史・分類や背景、また石積み堰堤目録からダムの雑学まで、その魅力が存分に語り尽くされています。

- 書名：日本のダム美 近代化を支えた石積み堰堤
- 著者：川崎秀明 (JRRN 会員)
- 頁数：320
- 発刊日：2018年10月
- ISBN：9784623083121
- 定価：¥2,200+税
- 出版社：ミネルヴァ書房

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

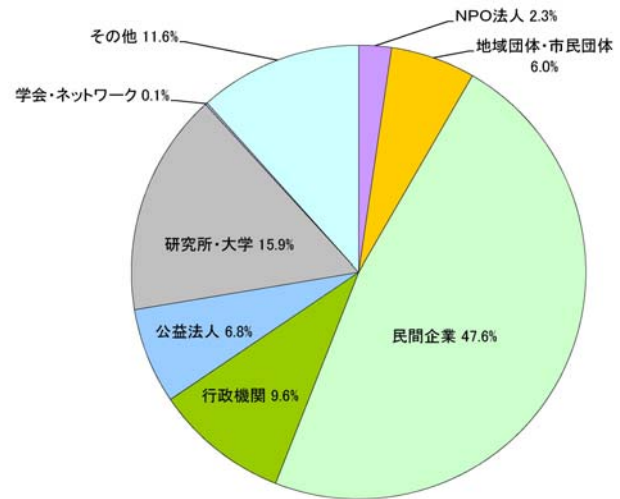
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2019年1月31日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：793名、団体会員数：60団体)

※1月の新規入会数：個人会員1、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

